



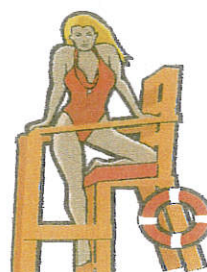
夏 ~輝きのある肌~

夏はみずみずしい肌で輝いていたい。
そんな思いを込めて肌をお手入れしましょう！！



風や光を感じながら過すゆとりのある一日。気持ちは開放感でいっぱいです！

しかし夏は、肌にとっては油断なりません。高温多湿の屋外では汗に悩まされることが多く、皮脂の分泌も活発になります。また、室内ではエアコンで温度や湿度をさげるため快適に過ごすことができますが、いちじるしく戸外と室内の環境が変るため、皮膚の機能は低下して、肌が乾燥しやすくなります。こういった状態を繰り返していると夏でも肌がカサつき、アレてきます。



その上、強い日差しによる紫外線を受けて日焼けすると肌はトラブルを起しますし、シミやソバカスを残すことにもなります。特にふだん日にあたることの少ない首や背中などは急な日焼けはできるだけ避けましょう。スカーフや帽子、日傘などを利用して日差しを防ぐ工夫も必要です。化粧水で充分潤いを補うことを心掛けましょう。

この夏の時期に肌をいたわったり、丁寧にスキンケアを行ったかどうかは、秋の肌に証明されます。きちんと汚れを落とし、パックやマッサージなどで肌にうるおいとハリを与えたり、といったお手入れが大切です。



汗と皮脂 ~夏の肌~

汗には流れ出る汗と蒸発して見えない汗（不感蒸泄：TWL）とがあります。

TWLは皮膚の働きの指標のひとつにされています。ある皮膚の研究によれば、夏は春・秋の3倍、冬の1.8倍の発汗があり、皮膚の機能が活発であることを示しています。また、汗だけではなく額の皮脂量も夏は春・秋の1.3倍、冬の2.1倍の皮脂量があります。皮膚表面は酸性に保たれることによって細菌などの害に対する防御システムが効果的に働くしくみになっています。

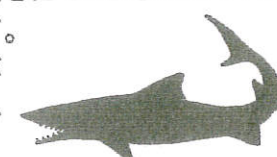
夏の肌のpHは、他の季節に比べて低く、細菌に対して強い皮膚であるといえます。高温多湿の環境の中で発汗量も皮脂量も多く細菌の繁殖などが最も心配される夏の皮膚ですが、発汗の多さが乳酸量を増し、酸性度を高めて皮膚の抵抗力を強めるといふ生体防御メカニズムが良く働き、過酷な条件に対応しているのです。



化粧品成分ガイド ~その1~

スクワラン

深海鮫の肝臓に多量に含まれている肝油からスクワレンを抽出し、酸化しないように安定化したものがスクワランで無色透明な液状オイルです。スクワランは皮膚に対する浸透性がよく、べたつきのない優れたオイルです。



天然スクワランが化粧品に使用されてから40年以上経過し、化粧品の重要な成分の一つとなっています。深海鮫の肝油は昔から民間薬としてあせもや切り傷などに使用されてきました。人間の皮膚から分泌される皮脂の中には、このスクワランやスクワランのもとになるスクワレンが含まれています。皮膚の表面で汗の成分と混じり合い天然のクリームと呼ばれる皮脂膜を作っています。若く健康な肌は、すべすべしています。それは肌の表面の皮脂膜が充分にあるからです。皮脂膜は汚れや雑菌などから肌を守り、肌の潤いを維持する保護膜の役割をしています。この皮脂膜に必要な成分がスクワランで、健康な肌の皮脂にはスクワランのもととなるスクワレンが3~5%含まれています。この分泌量は18才位をピークに25才前後から減ってしまいます。スクワランを肌に補うことで保護効果を増強し、トラブルに強い肌を育むことが大切です。

スクワランは角質を健康に保ち肌を柔軟にし、肌荒れを防ぐ効果があります。肌の保湿性を高めしっとり保つため貴重なオイル成分として多くの化粧品に使用されています。